あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第６８号　　２０２５年７月１５日発行

✋食べてはいけない？！身近な植物✋

種類や摂取量によっては重大な事故となる場合もあります。

①

植物名：ウメ

- 身近な食品中の植物性自然毒
- 毒性のある部分：種子、未熟果
- 毒性：梅の未熟な果実や核（胚または仁とも言う）には、アミグダリンと呼ばれる物質が含まれており、多量に摂取すると中毒症状を起こす可能性があります。
- 症状：けいれん、呼吸困難

②

植物名：　カクレミノの仲間　　ウコギ科

- 庭園樹木として一般的に植栽されている。
- 毒性のある部分：樹液
- 毒性：　ポリアセチレン化合物
- 症状：　皮膚炎　カクレミノ の樹液は漆と同じ成分であるウルシーノールという、毒性があり、肌の弱い方が触れるとかぶれてしまいます。

③

植物名：ドクウツギ

- 枝ぶりがウツギに似ていて、毒を含むことからこの名があります。
- 毒性のある・毒性部分：　果実・種子には猛毒のコリアミルチン、ツチンを含み、茎葉には、コリアミルチンをふくみます。
- 症状：　嘔吐、全身硬直、けいれん、呼吸マヒ

- 保存しておいた観葉植物のタネを誤って調理し、食中毒を発症したケースもあるようです。
  調理時に触る場所に置かないなど、日ごろから保管場所に注意しましょう。
- 誤食事故を防ぐために・・・
  「食べられる植物の近くに、有毒植物やよく似た植物を植えない」
  「食用だと確実に判断できないものは、採らない・食べない・売らない・人にあげないことを心がけましょう」

1. 第22回定期総会について

総務部会長　小松信彦

令和７年５月24日、当推進協議会の第22回定期総会が、あびこ市民プラザ・ホールで開催されました。総会に先立ち、農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」の政策方針や農業生産性向上のための「スマート農業技術の活用促進」などについて、農政課の長森係長が講演会を開催しました。農業政策の抱える課題や解決策などの概要を講演したものです。

さて、総会では当日の会員出席者19名、委任状の提出者61名の合計80名にて会則により成立しました。

開会宣言後、会則により齊藤会長が若王子副会長を議長に指名し議事進行しました。来賓代表として、渡辺副市長が協議会の活動について、「援農ボランテイア活動」や「学校給食野菜搬送活動」などを継続していることに謝辞を述べられました。

議案として、第１号議案　令和６年度活動報告について、第２号議案　令和６年度収支決算報告について、第３号議案　令和７年度活動計画について、第４号議案　令和７年収支予算案について、第５号議案　令和７年度新役員の選出について、それぞれ審議していただきました。

審議においては、「4号議案が今年度予算と昨年度予算を比較しているのは予実の差異がよくわからないので、今年度予算と昨年度決算額を比較するよう改めて欲しい」との意見が提案されました。第４号議案については、従来からの形式で比較してきていること、また、当協議会の予算体系は我孫子市の予算体系に準じているものであり、方針の変更はない。と回答しました。本件質疑の続きとして、「それでは、実態が分かりやすいように、２号議案説明時に予実差異内容を具体的に説明したほうが良い」との意見具申があり、これについては、「貴重なご意見として受け賜っておく」と回答した。その後、すべての議案とも挙手多数により原案通り承認されました。

その後、新役員の紹介を行い、特に懸案であったエコ農産物普及推進部会長に大炊副会長が就任する旨、会長より紹介があり、総会は無事終了しました。

総会後、会員懇親会が開催され、28名の参加を得て、我孫子産の野菜を使った㈱あびベジからの料理を味わいました。会員紹介では、課長を含めほとんどが新任となった農政課の地産地消係を紹介しました、また新会員などの紹介を含め、会員相互の親睦を深めました。

2. 総会を終えて

会長　齊藤　徳剛

今年５月24日に当協議会第 22 回定期総会は農作業に最適な天気にも関わらず、熱心な会員の皆様に出席いただき開催されました。その総会におきまして会長に選任していただきました齊藤徳剛です。これまでの活動経過を踏まえながら、上記総会で承認を得ました「令和７年度活動計画」に即して、当協議会の活動全般をしっかりと推進して参りたいと思います。

会員の知識向上や懇親の為の研修旅行等の開催要望も受けました。今期は懸案でありましたエコ農産物普及推進部会の部会長も決まり、より充実した活動が出来るのではと期待しています。

前年度は異常気象からか野菜不足が顕著で農業者の経営も難しいものになっています。昨今の米騒動もまだまだ先は見通せません。その中で地産地消という協議会の活動は小さいながらも農業振興に役立れるものと自負しております。今後とも、会員並びに役員の皆様、市役所をはじめ多くの関係者各位と共に、当協議会の継続と社会価値向上を目指したいと思いますので、どうぞご支援と ご協力をよろしくお願いいたします

3. 役員・実行委員一覧

役職名	氏名	実行委員等		
会長	齊藤　徳剛			
副会長	若王子　範文			
副会長	大炊　三枝子			
副会長	斎藤　寿義	農政課長		
総務担当	長森　賢仁	農政課　係長　地産地消係		
会計	長森　賢仁	課長補佐 鈴木　隆史	主事 向　優香	主任主事 小澤　暉丘
エコ農産物普及推進部会長	大炊　三枝子			
食育交流部会長	須藤　一宏	香取　典男	八澤　静江	
			サポーター委員 相馬　英里	
援農ボランティア部会長	井出　史郎	石田　善久	吉田　和子	
		（農家委員） 原田　賢宗	（農家委員） 古川　鉄夫	
学校給食支援部会長	中村　公一	志賀　幸夫	梶縄　茂雄	
		小嶋　史樹	石橋　誠	
	学校給食 コーディネーター	久島　幹夫	金田　幸治	
広報部会長	若王子　範文	日暮　俊一	出口　一幸	根本　奈央美
総務部会長	小松　信彦	齊藤　徳剛	吉田　和子	
会計監事	原田　信彦	JA 東葛地区センター長		
会計監事	仲原　千津子			
事務局	小松　信彦	吉田　和子		

4. みどりの食料システム戦略とは

農政課　長森係長

環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律（通称「みどりの食料システム法」）が 2022 年７月に施行されました。

1)みどりの食料システム戦略が策定された背景

- 気候変動・大規模自然災害の増加
- 生産基盤の脆弱化や地域コミュニティの衰退
- 世界全体と日本の農林水産分野の温室効果ガス（GHG）の排出
- 土壌劣化の課題や食糧増産の必要性

2)みどりの食料システム戦略の概要

みどりの食料システム戦略により 2050 年までに目指す姿と取組方向は以下のとおり

- 農林水産業の CO_2 ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農薬への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を 50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を 30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を 25%（100 万 ha）に拡大
- 2030 年までに食品製造業の労働生産性を最低３割向上
- 2030 年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す等

3）期待される社会的な効果は以下のとおり。

- 持続的な産業基盤の構築
- 国民の豊かな食生活
- 地域の雇用・所得増大
- 将来にわたり安心して暮らせる地球環境の継承

4）みどりの食料システム戦略の具体的な取組は以下のとおり。

- 調達…資材・エネルギー調達における脱輸入・脱炭素化・環境負荷軽減の推進
- 生産…イノベーション等による持続的生産体制の構築
- 加工・流通…ムリ・ムダのない持続可能な加工・流通システムの確立
- 消費…環境にやさしい持続可能な消費の拡大や食育の推進

以上

5. 新しい担当者（農政課）

農政課　斎藤課長

令和７年４月から、副会長となりました。農政課の斎藤と申します。
平成２２年６月に「あびこ型地産地消推進協議会」に入会し、現在も会員としても活動させていただいています。協議会との出会いは、会員になる前のことだったのですが、平成１６年から平成１９年にアビスタ図書館側入口付近で、月３回程度土曜日に行っていた「エコ農産物」定期即売会に、平成１９年からお手伝いをさせていただいたときになります。当時、１０名弱の市内農家さんからお預かりした協議会が認証する「エコ農産物」を手賀沼公園やアビスタに訪れる方々に対し、農家さん・販売ボランティア・農政課の方々がＰＲ活動を行いながら定期即売会を実施していました。

現在は、市がシステムを活用してエコ農産物認証を行い、あびこ農産物直売所「あびこん」を中心とした市内外の農産物直売所で「あびこエコ農産物」が販売されています。協議会が行っていた「エコ農産物の普及促進活動」があったからこそ、現在の「あびこエコ農産物」があると思っています。私は、初代会長である遠藤織太郎さんをはじめ歴代会長と意見交換をさせていただいた経験を活かし、平成１６年から２１年間の活動を継続される「あびこ型地産地消推進協議会」の様々なボランティア活動が、さらに活性化されるよう、微力ではありますが副会長を務めさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

6. 料理教室（地元産の野菜料理）

食育交流部会

今回の料理教室は新木地区で「新木地区まちづくり協議会」との初の共催として、新木近隣センターの調理室で今年度最初の料理教室で開かれました。
新木まち協委員の川上恵子先生に講師をお願いし、あびこ型「地産地消」推進協議会では地元農家からの野菜を使った“キャベツ”の「ソーセージを巻いたキャベツ巻スープとご飯にほぐし鮭を入れた キャベツ巻きずし」。そして“そら豆”を使った「ジャガイモ、鶏挽き肉を合わせたサラダと茹でたそら豆と甘酒を加えた甘酒寒天」を１５名の方が 12:30 頃まで調理しその後、参加者の皆さんとスタッフで一緒に出来上がりの料理を頂きました。最後のデザートには甘酒寒天にしょうが汁をかけて食べました。食事後は全員で調理器具を片付けて終わりました、

7. 令和6年度援農ボランティア活動状況

援農ボランティア部会　石田　善久

・援農ボランティア実績表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
5年度	援ボ希望者数	131	129	111	131	93	99	91	91	108	98	93	120	1295
	農家受入希望数	167	157	165	179	172	158	161	157	152	143	158	168	1937
	援ボ割当数	117	116	99	125	90	90	82	84	94	87	84	98	1166
6年度	援ボ希望者数	131	110	128	111	87	109	101	102	169	125	130	135	1438
	農家受入希望数	185	179	199	177	139	166	184	172	180	135	156	180	2042
	援ボ割当数	114	99	112	100	65	90	87	92	136	108	119	119	1241

★各数値は活動一覧表作成時の数値

・令和６年度の状況分析

1．援農ボランティア希望者数は第 21 期養成講座修了者を含む新規会員の貢献により、前年度比１１％（143）の増加となった。

2．新規受入れ農家の増加により、受入れ希望数は前年度比＋５％（105）の増加となった。

3．援農ボランティア割当数は前年度比＋6.4％（75）の増加となった。

発　行　：　あびこ型「地産地消」推進協議会　　会長　齊藤徳剛

住　所　：　270-1146 我孫子市高野山新田１９３（「水の館」2F）

（業務日 月・火・木）９：００～１７：００

Tel　04-7128-7770　　Fax　04-7128-7771

E-mail　info@abiko-chisan.com　　HP　http://abiko-chisan.com/

（協議会ホームページではカラーでご覧いただけます）